

# 令和3年 第5回 根室市教育委員会 会議録

## 1. 公開案件の審議

なし

## 2. 非公開案件の審議（会議録省略）

### (1) 議案第23号 根室市社会教育委員の解任及び委嘱について

結 論 原案どおり決定

### (2) 議案第24号 根室市スポーツ推進審議会委員の任命について

ることについて

結 論 原案どおり決定

## 3. 意見交換

○テーマ

- ・自殺や不登校について

### 【 教育部長 】

今日の意見交換ですが、報道等でも取り上げられていることが多く、最近コロナの関係で職を失ってしまった母子家庭の所とか、子供達の心の問題や自殺者が増えているということで、2020年は過去最高の479人の小中高校生、児童生徒の自殺数だったというところであります。この棒グラフで見ていただくと、赤が2020年、3月と4月以外は全ての月で昨年は最高の人数、毎月自殺する子どもがいたというところで、特に8月は前年と比べると倍になっています。

NHKのニュースでも放送していましたが、いのちの電話などに取り組んでいる団体は、そのことをよく知ってもらうために札幌市内の全部の小中学校高校に対して、DVDを配付するなどしているようです。根室市として今、子ども達の心の変化にどのように寄り添うかというところで下に記載させて頂いたところ、まず学校の取り組みというところで学校教育指導室長からお話しをお願いしたいと思います。

### 【 学校教育指導室長 】

先ほどの資料にありますとおり、夏休み明けの頃、8月、9月頃が非常に多くなっております。学校の方でもアンケートを実施しております。そのアンケートに基づいて、子ども達の不安、そういったものがあるということにかかわった各学校で教育相談という形で子どもから、今どういう気持ちなのか、どういうことに不安を感じているのか、そういった聞き取り調査をしていく。家庭との連携が必要と学校が判断すれば家庭と連携しながら、関係機関との連携が必要ということであれば、関係機関と連携と伺っております。

今年度、柏陵中学校で指定授業として、中一ギャップ問題という指定授業を受けていただいております。この中に1名、加配の教員が入りまして、中一ギャップに関わって小

学校と連携しながら、中学一年生の生活についてギャップを感じることなく問題を解消していくというところがあります。その中に自殺予防教育についてという項目があり、予防のプログラムというのがあります。学級活動や保健体育の学習などに関わらせながら、子ども達にまず自分が不安に思っていることを発信する力を身につけよう、誰かに相談したりすることは決して恥ずかしいことではないというところを子ども達にしてい。また同じような形で小学校でも、プログラムに沿ってということではなく、子ども達の心の中を耕していくという取り組みが必要なのではないかとということで、本年度、北斗小学校と柏陵中学校で連携をしながら取り組みを行っております。

市教委としましてはこの取り組みについて、市内全部の学校に普及するように追加資料等を提供していきたいと考えております。以上です。

#### 【 教育部長 】

新設されました教育支援担当主幹の方から学校訪問の議題をいただいておりますので、そちらの方をお願いします。

#### 【 教育支援主幹 】

4月から私と青少年相談室の相談員と一緒に学校を回って、不登校を始め児童生徒の問題行動や、子ども達の環境に関わって起きている課題行動について話を伺っており、学校に行かなくても電話で聴取したり、学校の方から色々と相談される場合もあります。

長期に渡って休んでいる子どもで、保護者や本人と連絡がつきにくく、学校が大変苦勞しているという例がございます。また、保護者自身が考えたり落ち込んだり、保護者自身が課題を抱えて悩み、それを子どもが気にかけて学校を休みがちになっているという話も耳にしている所です。今後も続けていきたいのですが、私としては次のようなことに気を付けていきたいと思っております。

1つは既に相談を受けているケースについては、学校と継続的な連絡をとっていきたいということです。長期不登校の子どもについて、学校が家庭を訪問する際に、相談員と一緒にいる例があります。今後とも色々な連携のとり方を工夫したいと思っております。

それから2つ目です。各学校から月ごとに児童生徒の欠席状況を報告していただいて、それをこちらで整理検討しております。中には病気で欠席という報告を受けながら、それがずっと続いていくと思われるケースがあるとか、家庭環境など色々な要因があるのではないかと、気を付けていかなければと思っております。4月、5月と継続して見ている中で、学校と連絡を取りながら対応を考えていきたいと思っております。

3つ目ですが、不登校についての対応の中で、適応指導教室やよいについての活用も視野に入れながら、相談していきたいと考えております。しかし現在も相談が進行中、なかなか結びつかない現状もあります。

最後ですが、事例によっては関係機関との連携も視野に入れていこうと考えております。特にこれまでの事例についても、子どもの家庭での生活や環境が影響するケースが多く、例えば児童相談室との連絡を密にしているところです。今後も継続していきたいと思っております。

【 教育部長 】

ありがとうございます。

【 教育長 】

何かこの件で発言等ございますか。

【 委 員 】

質問ですが、情報の共有というのがとても重要なのかなと思います。その中で、中一ギャップ、高一ギャップがあると思いますが、小中高と上がっていく段階でそれぞれ学校は個人の性格なり情報なりを持っていて、それをどこまで共有しているものなのか。小学校は中学校に、中学校は高校に引継ぎというか、この子は仲が良い、この子は仲が悪いとか、いじめられているなどという情報は。

【 学校教育指導室長 】

小学校と中学校に関しましては、3月になりますが、進級するお子さんについての情報は小学校の6年生の担任が中学校の方と情報共有するという形になっています。高校でも同じように中学3年生の状況というのは高校の方に引き継がれています。

基本的にはそのような形で引き継ぎを行っています。また、私は小学校におりましたので、中学校の方からこのお子さんは何かあるのかという問い合わせがあった場合、それに対して小学校の方で情報をお伝えしておりました。基本的な引き継ぎの中で足りない部分があれば、その都度情報共有を行っているところであります。

【 教育長 】

根室市の場合、例えば特別支援ですと、りんくすねむろという制度がありまして、小中高と情報を引き継ぐ形が出来ています。その部分については他の町に比べてもシステムの、制度的には整備されている状況だと思います。整備された特別支援の情報共有部分も万全かといふとなかなかそういうわけでもなく、今年度からの重点課題にあります幼保小中高等に一貫した連携の中で、そういった部分も充実を図っていきまじ、それに加えて特別支援だけでなく他のお子さん達の情報共有もできるだけ図っていきたい、そういう意欲で進めて参りたいと思っております。ただ、先ほど言ったようにシステムが出来上がっていれば万全かといふばそうではないということもございませので、今後はどのようにして情報共有をもっと密にしていけるかが課題だと思っております。

【 委 員 】

ありがとうございます。

【 教育部長 】

子どもに対してどういうふう反映されるのかというか、先月、意見交換で出させてもらった事例がそうだと思いますが、啓雲と光洋が統合しまして、啓雲の子が仲の良い子がいなくて教室の中で孤立してしまい学校に行けなくなったという事例も、啓雲中学

校で事前に面談などやっていますが、本人がその時はそれほどその事を訴えてなかったようです。

結局、行ってから現実に気が付く子どももいるので、その救い方というのがすごく重要なのだろうと今回思いました。「今お話しする事は、こういう事に繋がっていくという事を統合の時に参考にさせてもらうから」と子どもに伝えてから聞くと、違ったものが出てきたのかもしれないと反省しているところでもあります。

#### 【 教育長 】

ほかに何かございますか。

#### 【 委 員 】

今の件ですが、まさにそのとおりで、啓雲と光洋が統合し、中二というのが初めてのクラス替えになります。小学校1年生の時から1クラスしかなかったものですから、初めてのクラス替えで誰と一緒に誰と離れるのか、女子は特に気にしています。誰と一緒に帰ってきて、誰がいなかったから一人で歩いてきた、とかそういう事に特に神経をとがらせています。先ほどのような件も、あの子とあの子の仲が良いのは周りも知っていたのだから、どうして先生と一緒にしなかったのだろうね、と言っている子ども達や親もいます。

初めてのクラス替えで、6年、7年間一緒だった人と離れて、急に誰とも話ができなくなった、かわいそうだと子ども達が言うもので、他の子では駄目なのかという感覚ですが、その感覚とはまた違い、すごくデリケートです。先生も大変だと思いました。

あと、校風の違いです。啓雲は先生と生徒が友達のような付き合いで垣根がなかったようですが、光洋に行ったら結構壁があり、厳しいと感じているようです。それはそれぞれの校風ですから仕方ないですけど、今やっとそういう事で初めて違う学校なのだと実感しているのかなという感じです。

#### 【 教育長 】

学校教育指導主幹のほうで何かありますか。

#### 【 学校教育指導主幹 】

前回もお話ししたと思いますが、クラス替えを経験している子どもと、クラス替えを経験していない子どもの差というのは大きく、まだ根室市内ではクラス替えを経験した子どもは結構いますが、郡部の子どもは生まれた時から、幼稚園保育所から中学校を卒業するまで同じクラスで同じ友達と過ごし、そしていきなり高校に入った時に300人や200何十人の大所帯に入って新しい友達を作ると言ってもそう簡単に作れる問題ではないし、まして今まで友達だった人が別々になって、例えると東京の大学に一人で入学したのと同じような状況に置かれます。高校生の場合は精神的に成長しているので対応できますが、中学生には本当に大きな壁で、それを支える方法を間違えると不登校になったり、人間関係を構築できなくて引きこもったり、そのようなことも起こり得るという事です。

細心の注意が必要なのはこの統合で、光洋の先生方もすごく意識したのは、少人数の子ども達が大人数の学校に統合されてきた場合、少人数の子ども達をいかに大人数の子ども達が受け入れやすい環境をつくるかという、そこに一番力を入れているのではないのでしょうか。

聞くところによると、この1か月あまり、前回話した子どもの例や、それ以外の様々な例はありましたが、不登校になるとか学校に行きたくないという子どもの情報は今のところ聞いていない状況なので、今は元々いた光洋の先生方だけではなく、元々いた光洋の子ども達と一緒に受け入れるという環境を作りつつあるのかなと思いますが、一学期いっぱいにかかるのかと。

一番良いきっかけは、今年できるのかどうかまだわかりませんが、体育祭だと思っています。体育祭を通して、今の学級が一つになって初めて、こういう人だったのだというのがわかって、やって良かった、やっと統合できたという気持ちになるかなと。コロナ禍でどこまでできるかわかりませんが、統合した学校にとってみるとクラス対抗の大きな行事というのは、とても大切な行事なので是非光洋で体育祭とか、クラスがまとまって取り組む行事を成功させてあげたいという気持ちでいっぱいです。それがないと統合した結果、慣れるのに一年間かかるという感じになってしまうので、なんとか体育祭だけでも、どんな形でもいいですからやらせてあげたいと感じました。

子どもの気持ちが一つになる、それをめがけて不登校だった子どもも参加してみようかなというきっかけで、登校できるようになるというケースもあります。クラスの仲間づくりというのはとても大切な取り組みで、そのような取り組みを続けて行けると、自殺予防にもつながる良い方向に持って行けるのではないかなと思っているところです。以上です。

## 【 教育長 】

コロナに関連して、先ほど学校の関係で運動会、体育祭の話が出ましたが、昨日校長会と月に一度の打ち合わせを行い、緊急事態宣言をやっている間は出来ないけれど、それが明けたらやり方に気を付けながらやっていくということで話をしたところです。ただ、緊急事態宣言が5月末で終わりなのかどうか。

修学旅行を2校、春にやる予定でしたが、結果的には2校とも秋に延ばしました。緊急事態宣言さえ解除になれば、運動会や体育祭はやっていこうという考え方ですが、去年と同じように気を使いながら、考えてやっていかないといけないという気がします。

午後2時15分 閉会